

ラグビー部

「トルビコンの流れ〜っ、雄姿を宿し〜っ、……」。私たちラグビー部の練習は、いつも部歌を歌うことから始まります。部歌を歌うことで自然と力が湧いてきて部活を始められることができるのです。

今私たちは部員13人、マネージャー3人の計16人で活動をしています。部員不足に悩まされていますが、部員が少ない時こそ良い雰囲気練習することが大切だと考え、走るメニューをこなすだけでなく、セットごとにお互いの名前を大声で呼び合い、つらさを乗り越えています。

秋高ラグビー部の最大の魅力は、なんといっても上下関係のつながりの深さにあります。現在所属している部員の上下関係だけでなく、卒業したOBの方々が時間を割いて練習に来てくださり、大いに私たちの力になってくれています。これは他の部活動にはない魅力だと感じています。

2月25日、私たちの偉大なOBである新日鉄住金の進藤孝生さんの記念講演が行われました。講演会では進藤さんのラグビー人生、すなわちラグビースピリッツを聞き、たくさんのことを学ばせていただきました。その中でも特に印象に残ったのは「練習は不可能を可能にする」という言葉でした。この言葉を信じて部活動に限らず勉強でも、不可能を可能にできるよう努力したいと思えます。

秋田の長い冬も終わり、これから本格的なラグビーシーズンに入ります。これまでにやってきたラン、ヒットなどの積み重ねが結果となって表われることを信じて、私たちラグビー部は夢の舞台花園を目指し、今日もグラウンドを一心不乱に走り回っています。

「3年B組 賀藤 瑞貴」



文芸部

文芸部では、各部員が書き溜めた作品を月1回の合評会で批評しあっています。その他、不定期に行う題詠や年2回他校との合同短歌会など多様な活動をしています。

現在は、秋高祭で販売する部誌「琢磨」の制作に向け、部員の創作企画や学校外で見聞を広げる外部企画を進めています。ただ、問題なのは外部企画の詳細がまだに固まっていないことです。昨年も外部企画にあたる部員の座談会が決まったのはかなり遅い時期でした。外部企画は毎年の部長の悩みの種といえそうです。

また、悩みの種は他にもあります。前述のとおり文芸部の活動は基本的にゆるいので今は部員全員が兼部しています。その上、この原稿を書いている3月下旬だと運動会のチアリーダーイングをしている部員も練習に忙しく、月1回の合評会に部員がほとんど集まらないということもたびたびです。部長は正直、胃が痛いのです。

何はともあれ、部誌やコンクールに関係なく、といえは嘘になりますが、よりよいものを書いていきたいです。……文章力や表現力が欲しいと思っている部員は私だけではないはず。

そんな中でも、気が付いたら今年度も、いろいろなコンクールで賞をいただきました。第8回全国高校生短歌大会（短歌甲子園）で団体準優勝（河田沙季、布谷みずき、松岡）したほか、個人では私が最優秀作品賞に選ばれました。

また、第3回中・高生まなVIVA！小説大賞では大野瑞希が見事大賞を射止めました。

「3年C組 松岡 美紗」



編集後記

▼同窓会だよりが始まって以来のオールカラー。誌面の隅々まで色彩豊かな写真と活字が躍り、だよりは新たな息吹を注入されて生まれ変わった▼全国各界各層で活躍する同窓を取り上げる「ズームアップ」、文武両道の部活動の今を紹介する「秋高NOW」など新企画にもご期待を▼表紙の題字は元母校教師、斉藤常雄氏（昭和42卒）に揮毫していただいた。（半可通）

フルカラーにしました

「秋高同窓会だより」は今年第95号から「秋田高校同窓会だより」に名称を変えるところにも誌面を大幅に刷新、印刷もフルカラーに切り替えました。印刷会社との協議の中で、フルカラー化しても従来の予算の範囲内に収まるという提案があり、運営委員会、理事会に諮り了承を得たものです。この結果、今後写真はもとより広告版下もデジタルデータによる入稿に限りカラー広告が可能となります。